

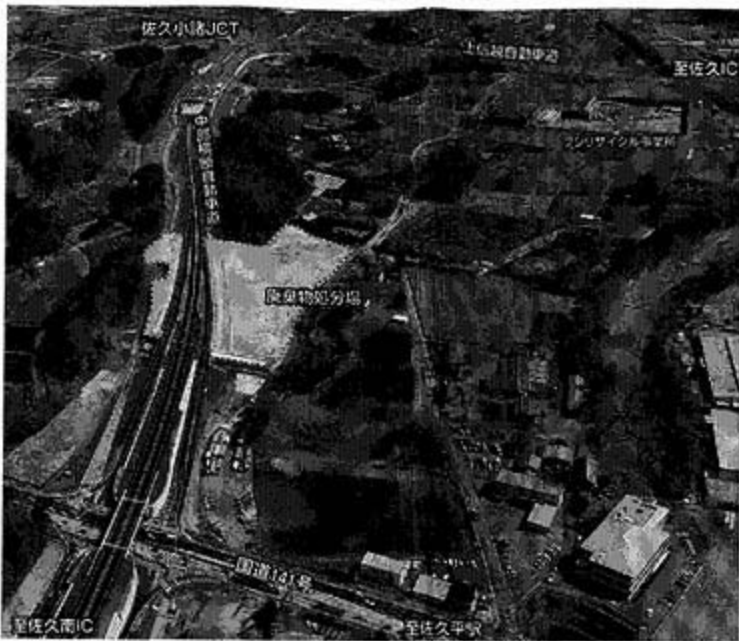
独自工法で早期跡地利用

フジコーポレーション（長野県佐久市）の廃止前最終処分場で、独自の「フジ式雨水遮断管理工法」による早期跡地利用が実現した。最終処分場の上に高速自動車国道である「中部横断自動車道」を施工、このほど開通した。廃止前の最終処分場の上に国土交通省が所管する国庫の一部が建設されるのは初めての極めて異例なケース。同法は閉鎖された最終処分場の維持管理コスト削減と跡地の早期利用を可能にする特許技術で、今回の道路建設で改めてこの工法の有効性が確認された形だ。

廃止されていない処分場。結果、建設が可能となった。は地元総合建設業の竹花組の状態で、通常であれば、同処分場は「フジ式雨水遮断（同社）」。同社の担当者は「その上、構築物・工作物は、断層型工法とフジ式盛土（当初は処分場の上なので造れないが、今回のケース、材質形成工法」という2種類の盛土ではないかと

「フジコーポレーション」フジ式雨水遮断管理工法

では国土交通省、長野県との協力の同社の特許技術に準じて、いっそうの下で調査に入っ。隣で道路敷と処分場の雨水を完全に遮断して管理することが可能であればという。路建設の決め手となった。今回の工事に当たったので、同等以上であること



上部に高速道施工

埋め立て層堅固
雨水も完全遮断

とが分かった」と話す。道路の路床を支える躯体が軟弱だと路床部分の沈下などを招き、道路に影響を及ぼしてしまふ。その場合軟弱地盤工法等で補強をしなければならぬ。今回の工事でも最終処分場といふことで軟弱地盤ではないかとの懸念があったが、調査の結果、フジ式盛土材質形成工法に準ずる工法で施工されており、地盤は非常に硬く堅固であることが分かった。

構築物埋め立て層が堅固なことが分かったため、その上に路床を構築する。自体には問題ないが、路床と構築物埋め立て層の間に覆土が存在するとその部分に圧縮が生じ沈下する恐れがある。その問題を解決するために覆土部分を砕石に置き換えて強度を増す方法を採用。これにより沈下等を抑えるとともに、構築物埋め立て層の腐蝕も兼ねることができた。

雨水の遮断管理については、フジ式雨水遮断管理工法に準じた工法により、最終処分場と道路構造物の境界に遊水シートを設置し雨水を完全に遮断管理することと、廃止前の最終処分場に道路が建設可能となった。

フジコーポレーションの山口隆吉部長は、「1・20の調査のない工法を国に提供できたことが、業界全体のレベルアップにつながっている」としている。